後半の追い上げも虚しく…得点ならず、無念のドロー

駒澤大学0－0青山学院大学

途中出場ながらも存在感を見せた吉岡(撮影：清村亮太)

11 月 9 日　13：50　青山学院大学緑ヶ丘グラウンド

駒大	0	(0-0) (0-0)	0	青学大

得点者（ｱｼｽﾄ）

KOMAZAWA	AOGAKU
GK①大石健太(4)	GK⑫高橋博昭(3)
DF⑬大木　暁(3)	DF③早田廉(4)
DF⑤伊藤槙人(3)	DF⑤京谷季樹(3)
DF④平尾優頼(3)	DF㉕御牧建吾(1)
DF②友廣壮希(4)	DF⑳服部真矢(3)
MF⑥若山瞭太(4)	MF㉞井端勇太(4)
MF⑦碓井鉄平(4)	MF⑩木澤純平(4)
MF⑰平野篤志(2)	(79 分⑱関谷祐(3))
(67 分㉚キンデセン(1))	MF㉒荒木大吾(2)
MF⑪小牧成亘(3)	MF㉘伊藤光輝(1)
FW⑧畦地健太(4)	MF⑯恵　龍太郎(2)
(63 分㉚吉岡雅和(1))	(87 分本城信晴(3))
FW⑨小牟田洋佑(3)	FW⑧後藤拓斗(3)
S　U　B	(72 分㉘三田真也(1))
GK㉒野村政孝(4)	S　U　B
DF③田中雄一(4)	GK①橋本勇樹(4)
DF⑮川岸祐輔(3)	DF⑮水島雅之(3)
MF㉘児玉卓也(1)	DF②石原良将(2)
FW㉝糸井康裕(4)	MF⑥高山俊郎(4)
MANAGER	MANAGER
岡田誠史	福永奏

[シュート]8:7 [GK]10:14 [CK] 13:5 [直接 FK]7:17
[間接 FK]2:7[主審]沖園　英次郎　[観衆]223 人

警告(C)／退場(S)

[神]45 分　京谷季樹(c)
[駒]63 分　平野篤志(c)

攻撃陣不発…まさかの得点０に沈む

前節、昇格がかかった大一番で見事完封勝利を収めた駒大イレブン。試合内容としても、サイドからの攻撃、前線からのプレスなど「駒大らしい」サッカーで相手を圧倒し、充実したものとなった。この良い流れのまま、３位青学大を下せるか。

前半キックオフ。前節と打って変わり、終始、ペースがつかめず攻撃にリズムが生まれない。青学大のパス回しに手こずる場面が目立つ。しかし、対する青学大側も、高いポゼッション率を誇る一方で、ゴールを脅かすほどのフィニッシュには至らず、得点の気配はない。両者、覇気を欠き、停滞したムードのまま、前半４５分を終える。

後半は状況が一変する。立ち上がり、前線からプレッシャーをかけることで相手にボールを蹴らせ、それをヘディングで跳ね返す。そして、跳ね返したボールを拾い、攻めに転じると、この攻撃パターンが上手くハマったのか、ゴールまで迫る回数が格段と増える。一方の青学大もカウンターで反撃に応じ、一進一退の攻防戦に。自陣ゴールを大石が体を張って守る中、攻撃陣も奮起するが、惜しいところで得点には至らない。碓井の安定感ある CK や FK に、伊藤や若山が合わせようとするものの、枠をとらえきれず。また、６３、６７分に投入された吉岡、キンもドリブルなどでチャンスメイクするが、結局決定打には恵まれない状況。しかし、後半４５分は無情にもあっという間に過ぎ去り、待ち望んでいた１点は目前で消え去ることとなった。

駒大が無得点で終わったのは、第２節、対東国大戦の１８節ぶりである。得点王最有力候補の小牟田をはじめとし、充実した攻撃陣を従え、「攻め」のサッカーを展開してきた駒大。２トップの一角であった山本をケガで欠いてからも、コンスタントに得点を挙げ続けてきたが、今節でその流れは途切れることとなった。「気の緩みから出た結果」と平尾が語るよう、昇格が決定した安心感が今節に出てしまったのだろう。しかし、優勝、そして、来年１部の舞台で戦うためにも、安心している暇はない。ここでもう１回気を引き締め直し、残り２節を全力で戦い切って欲しい。

（森　綾香）